

## 講評① マッチングイベントの全体像

- ニーズの解像度の高め方が良かったため、九州地域横断的な取り組みを継続・発展して頂きたい。採算性の問題に対する地域経営資源の投方方法下が次の課題か。

### 需要

衛星データ利用ニーズの解像度の高め方が定式化された点が素晴らしい

### 提案

個別で行うデータ利用活用のみでは、**実証に留まってしまう懸念**  
(規模や時間軸等、事業採算性が合わない点をどう回避するか)

### 提案

他地域や海外事業にも発展可能な目線を持った提案があった

### 提案

ニーズの高い解像度が提示されると、**提案者も集まりやすく、提案し易い**  
(需要の解像度をどれだけ上げられるか？の勝負に)

### 産業

宇宙産業としてスケールさせるヒントとなる地域経営資源を投下し得る、**需要の共通化・広域化の可能性提示**とマッチング継続性・発展形が鍵か







# 現状認識（1/2）九州における現状

■ 各県・市区町村が衛星活用や製造に対して個別支援を行い、やや重複感もある状況。

## 衛星データ活用需要の視点



## 衛星の製造の視点\*

<p>山口県</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ H27年度より航空宇宙クラスターを組成し、クラスター内での受注を実施</li> <li>■ H31年度よりクラスター参画企業にて小型衛星部品の研究開発を実施</li> </ul> 
<p>福岡県</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ QPSを中心として県内にQPS衛星製造サプライチェーンを構築</li> <li>■ 新規参入可能性のある県内事業者について調査</li> </ul> 
<p>北九州市</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ R6年度事業にて、市民衛星製造可能性調査をMURCが実施</li> <li>■ 九州工業大学を通じた衛星製造人材基盤が存在</li> </ul> 
<p>佐賀県</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ R2年度JAXAと連携協定締結</li> <li>■ 同県内研究会を通じて、民間衛星のコンポを地場企業が製造</li> <li>■ 県内高校群にて超小型衛星を製造</li> </ul> 
<p>大分県</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 奥山教授を起点に県内企業と「てんこう」プロジェクトを実施</li> <li>■ 衛星製造企業より、衛星部品の受発注を受ける企業が存在</li> </ul> 
<p>鹿児島県</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ KROXによる県内企業への宇宙関連技術/知見の伝達</li> <li>■ 電子部品や射場関連設備(地上局等)製造可能性の高い企業の存在</li> </ul> 

# 現状認識 (2/2) 個別地域の衛星データ需要と予算

■ 多くの自治体の衛星データ事業で使える予算上限は**100万円**前後。複数地域予算を統合し初めて本来必要な**開発導入1,000万円**～**運用200万円**に到達する<sup>1</sup>。

前提

基礎自治体（原課）が需要家として、衛星データを活用したシステム等の導入を検討する場合・・・

(凡例)

— 本来必要な予算

— 自治体予算

今起きていること≡一つの地域で衛星データ利用を検討

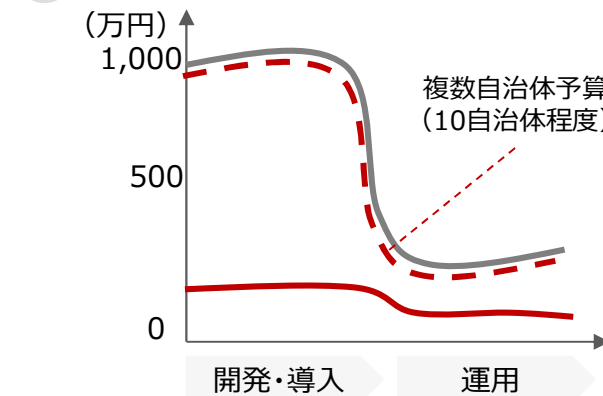
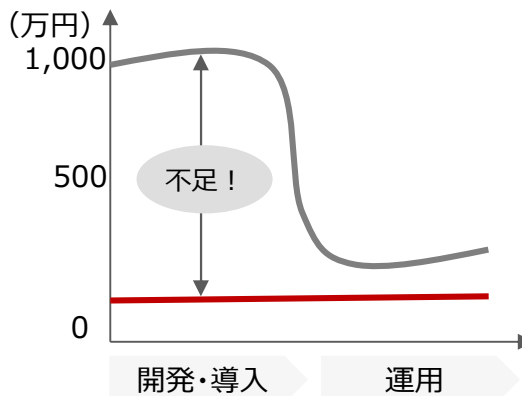
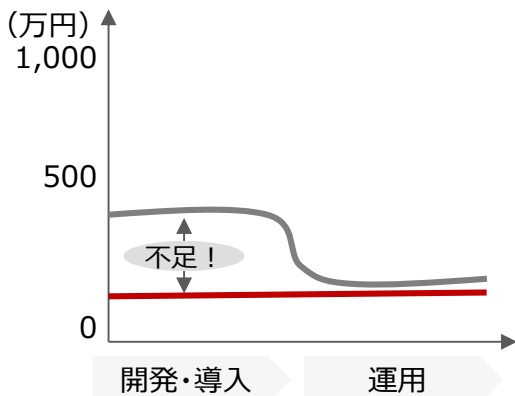
複数地域で需要統合

必要・実際予算イメージ

低コスト × 低品質

高コスト × 高品質

低コスト × 高品質



関係者の声  
需要家  
自治体  
供給家

衛星データ予算は**100万円<sup>1</sup>**程度が限度だが、それだと低品質で利用拡大が困難・・・

使ってみたい品質のサービスは手が出ない・・・導入自治体が羨ましい

高品質なサービス開発を支援・運用時は1地域で利用する場合より低額になる可能性

開発自費で負担・自治体予算に合わせ政府衛星を使う (一部企業の画像販売ビジネスには繋がらない)

せっかく開発したがごく一部の衛星データ関心高い自治体にしかならない

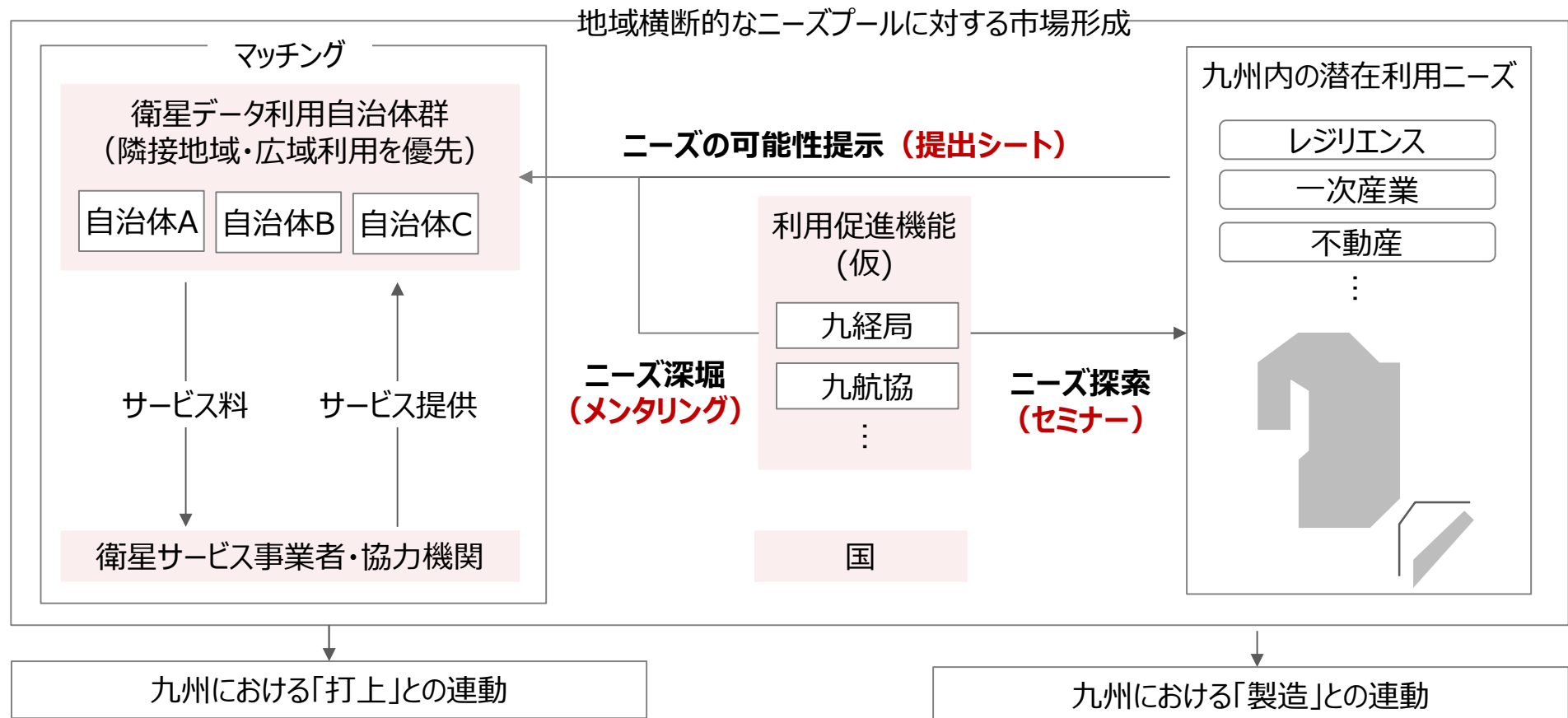
他の撮像エリアの地域群への横展開も見込めるサービスが開発出来た

## 講評② 宇宙産業と九州に必要なこと = 連続的な需要創出

■ 本日集まる皆様が行った、ニーズの可能性提示・深堀・探索は、九州における地域横断的なニーズプールの形成を能動的に行う新たな市場形成に繋がりをもの。

目的

九州横断的な衛星データ需要を創出し、地域課題解決と経済活動の両面で活性化を狙う



# 需要起点のオール九州衛星プロジェクト構想の可能性

- 地域が個別に取り組んでいた衛星データの需要を統合し、プロジェクトを連続的に立ち上げることで、サービスや製造、打上に繋がる九州起点の産業活性化を狙う。

九州が起点となって推進する衛星の需要・製造を統合したプロジェクトのあり方

